会報 文化財保存新潟県協議会
第４７号
2012年2月11日発行

新潟の遺跡はどのように守られ・活用されてきたか？

文化財の今と未来を考えた第13回大会！

小林さんによる県内遺跡の紹介

去る2011年11月23日（水・祝）、新潟市歴史博物館（みなとぴあ）セミナー室において、文新協第13回大会「新潟の文化財の保存と活用を考える」を開催しました。今回は、普段の大会とは趣を変えて、新潟の遺跡がどのように保存・活用されているかを、文新協の中心メンバー３人が語りました。

まずはじめに「にいがたの遺跡公園を歩く～文化財の活用例に学ぶ～」と題する小林隆幸さんの講演です。小林さんは遺跡の保存整備に関わった経験を持ち、現在は新潟市歴史博物館で学芸員として館の運営に携わっています。従来から、遺跡は保存と整備まで出来たら成功､活用まではなかなか注目されないといった現状があるが、文化庁は遺跡を観光資源として見ようという傾向にあると指摘します。その上で、新潟県内にある「史跡整備された史跡」（発掘調査などを行って、遺構・遺物がある程度明らかになって、保存され、学習・レクリエーションに供するために積極的に整備された遺跡）を「ガイダンス施設を備え、人が常駐する遺跡」「無人で、遺構や遺物を表示・解説した遺跡」「観光施設として復元された遺跡」などに分類し、それぞれご自身が訪ねた写真を示しながら、約30もの史跡の現状を具体的に説明しました。「観光と地域活性化に注目すると、現状では、県内で整備された遺跡は最高で年間26000人の集客しかないので、観光施設とは呼びにくい。観光よりも地域住民がどう活用するのかを考えていく必要がある。」とまとめました。「地域の人たちの活用のヒントとなるのが、新潟市大江山公園、十日町市笹山遺跡、胎内市江上館。これらの地域住民の活動に学びたい。」と締めくくって講演を終えました。

続く川上真紀子さんの報告「文化財に学ぶ市民の運動」では、1984年の旧中郷村籠峰遺跡以来の県内の遺跡保存運動に関わってきた経験を踏まえ、文新協がこれまでに取り組んできた上越市裏山遺跡・柏崎市軽井川南遺跡群の保存運動、県立奥三面総合博物館建設を求める運動、角田山麓の遺跡を考える会など、15年間の活動の成果と課題をまとめました。さらに、新潟市大江山公園における「大江山縄文市」の取り組みを紹介し、実際に地域住民が遺跡に集って活動しているモデルを示しました。甘粕健会長の報告「史跡古津八幡山遺跡の今」では、史跡整備が一段落し今年いよいよガイダンス施設をオープンする新潟市古津八幡山遺跡群の現状を確認。1987年に磐越自動車道の採土用地で発見されてから24年。当時の運動の様子を振り返りながら、この遺跡の保存運動の成果と今後の遺跡のあるべき姿について熱く熱く語りました。

なお、大会に先立ち行われた総会では、「2010年度活動報告」「2011年度事業計画」「2011・2012年度役員選出」などの議事をご承認いただきました。また、大会後の懇親会も、楽しい時間を過ごすことが出来ました。ここにご報告させていただきます。　**（事務局）**

【参加者の感想】

○小林先生の「遺跡公園を歩く」は大変理解しやすく、画像での説明は説得力がありました。資料も参考になります。軽井川南遺跡群、奥三面博物館、角田山麓の川上さんのお話、大変ご苦労がよくわかりました。遺跡をのこす運動、また、地域活動のむずかしさ、リーダーの重要性、ご苦労がよくわかりました。

○小林隆幸さんの講演が印象に残りました。遺跡の保存・整備から遺跡の活用にシフトしていること、現状の新潟では観光資源として遺跡が生かされきってはいないこと、外部から人を呼ぶより、その地域の人が活用することを考えるべきだということがわかりました。特に「地域の人が活用する」という考え方は、とても共感できるものでした。

○遺跡の保存と活用については、まず地元の方から遺跡の存在を知ってもらい、興味を持ってもらい、伝えていくということが大事と思います。小林さんの遺跡の現況のレポートは、遺跡の保存と活用の今後の参考となる良い資料になると思います。

○講演会にいつもお客さんとして出席していますが、何か申し訳ない気持ちになりました。いつも受け身ではだめだと感じました。毎年少しずつ遺跡見学に個人で行っています。来年は大江山にぜひ行きたいです。県外の古墳群や縄文・弥生の住居とくらべるのが、今日のお話しの中の遺跡めぐりとあわせて楽しみです。市民運動の大切さ、土地柄の違いなど、今日のお話は初めて聞くことばかりで、来て良かったです。

○継続的な保存運動、「奥三面総合博物館」支持します。遺跡は無くなっていない。逆に、ダム・水により守られている？　朝日山系の自然は健在である。

○知らない遺跡（一本杉・丸山・十三仏塚・笹山遺跡等）のご紹介が多々あり、大変興味深かった。後日訪ねてみたいと思いました。

○研究者や行政の人達は、遺跡や遺物が元のままに保たれていればそれで良し、としているように思われる。その当時の人々がどんな生き方をしていたのかetc、何々時代でブツブツ切れている訳ではないのですよね。人は古代から今にまでずっとつながっているという事を伝えられれば良いのではと思いました。

奇跡的な快晴に恵まれた富山・石川両県の旅

時代を超えた先人の構築物に思いを馳せた2日間!!

2011年11月26日（土）・27日（日）の両日、文新協恒例の秋の見学会「越中・加賀の遺跡最新情報!!～弥生墳墓・古墳・城跡を訪ねる～」を開催しました。今回は富山・石川両県で新たな発見や史跡整備が進む遺跡・古墳群、そして文新協では珍しい近世城郭をめぐる旅でした。

澄み切った青空の下、新潟駅南口を出発したバスは、北陸自動車道をひたすら西へ。まずは最初の見学地、富山城です。バスを降りた一行の目に映ったのは、堀の水面に映る姿も美しい三重４階建ての富山城天守閣。これは1954（昭和29）年の富山産業大博覧会開催の記念建築物として建設され、現在は富山市郷土博物館となっています。城といえば地上の構築物に目がいきますが、今回は現地で発掘調査にあたっている古川知明さん（富山市教育委員会埋蔵文化財センター所長）のご案内で石垣を中心に見学しました。普段は何の気なしに見ている石垣ですが、古川さんの

白い壁が眩しい富山城天守閣

快晴の立山連峰をバックに

秋常山２号墳にて説明を受ける

金沢城の石川門にて

ご説明で「本丸の鉄門枡形虎口に巨石（鏡石）が５つ存在する」「石に刻印が400個以上存在する」など、なかなか気づかない富山城の特徴を実感することができました。郷土博物館の中では富山城をめぐる豊かな歴史を物語る展示の数々を見て、富山城を後にしました。

続く見学地は王塚千坊山遺跡群です。ここは丘陵部につくられた６基の古墳と４つの古墳・墳墓群、５つの集落遺跡で構成される遺跡群で、弥生時代後期から古墳時代前期の大規模な遺跡群です。今回は四隅突出型墳丘墓が確認されている富崎墳墓群とふたつの古墳を見学しました。遺跡群の中にある各願寺（真言宗）は旧富山藩祈願所で、ハイキングモデルコースの拠点的な位置にあります。ここにバスを止め、遊歩道と急な山道を20分ほど歩くと勅使塚古墳（全長66m、前方後方墳）があります。山頂に築かれた急斜面の墳丘を持つ巨大な姿にはびっくりさせられます。甘粕会長はじめ健脚組はその威容を実感することができましたが、少し自信のない方は麓の各願寺の境内をご案内いただき、寺宝の数々を見学させていただきました。その後は、この日の宿であるかんぽの宿富山に到着しましたが､なんと、建物の隣には端正な姿をとどめた王塚古墳（全長58m、前方後方墳）が。やはり急斜面なその墳丘に登り、往時に思いをめぐらせて１日目の見学を終えました。

２日目の見学地は石川県です。北陸自動車道をさらに西へ向かい、能美市立歴史民俗博物館へ。ここでは学芸員の菅原雄一さんのご案内で資料館の展示、その背後の丘陵にひろがる和田山古墳群、そして新たに整備されたばかりの秋常山古墳群を見学しました。ここは、手取川南岸の独立丘陵上に位置する５つの古墳群を総称して能美古墳群と呼ばれています。弥生時代終末期から古墳時代全時期を通して築かれた、推定70基以上からなる石川県内最大の古墳群です。私たちの目をひいたのは、整備が完成したばかりの秋常山１号墳（全長約140m、前方後円墳）と近接する２号墳（一辺約30m、方墳）の美しい姿です。石川県最大、北陸でも最大級の１号墳は墳丘の一部が葺石を敷き詰められた形で整備され、その墳頂からは被葬者が治めたであろう広大な手取川扇状地、そして日本海を一望することができます。２号墳は墳丘内部に入って埋葬施設を見ることができる展示施設があり、発掘調査されたままの様子を観察することができました。

午後からの見学地は金沢市金沢城です。隣接する兼六園が有名なこの城は、長くここにあった金沢大学が城外に移転したのを契機に発掘調査が進められてきましたが、現在は北陸新幹線が金沢まで開通する2014年度末を目指して発掘調査と建造物の復元整備が急ピッチで進行中です。この調査にあたる石川県埋蔵文化財センターの冨田和気夫さんのご案内で、城内をじっく

りと見学しました。金沢城といえば「石川門」が有名ですが、おなじみのその門の背後には広大な三の丸広場・二の丸広場がひろがり、本丸園地へといたることができます。兼六園を訪れたことがある方も、通りの向かいにこんな広大な城域が保存され、意欲的な整備が行われていることには気付かないかもしれません。豊かな文化遺産を積極的に観光に生かしていこうとする石川県の意気込みを感じつつ、北陸路を新潟へと向かいました。

今回の見学会にあたっては、ご紹介した方々のほか、富山県の小林高範さんと小黒智久さん、石川県の山川史子さんにもおつきあいいただき、様々なご教示をいただきました。多くは私が一緒に新潟での大学時代を過ごした先輩・後輩にあたる方々です。懐かしさと共に、おかげで初めての見学地もスムーズに回ることができ、現地で調査にあたる方ならではの貴重なお話をたくさん聞くことができました。夜の懇親会も、参加者一同おおいに歴史談義に花を咲かせました。そして、今回の主役は、何といっても真っ青な快晴の空を用意してくれたお天道様です。バスの車窓からは常に白銀きらめく立山連峰を臨むことができました。素晴らしいお天気と、ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げ、見学記を終えます。　　**（木村英祐）**

【参加者の感想】

○何分にも遺跡等、古代からの文化財について基礎知識がなく、参加申し込みに少なからず不安がありましたが、富山・石川両県の学芸員の皆様から懇切丁寧に説明を受けることができ、楽しい旅でした。身近ではあるけれど、自分が知らない所に先人の貴重な生活の跡が数多くあるということを再認識する旅でもありました。今後も同じような企画があったなら、喜んで参加させていただきたいと思います。

○印象深かったのは、能美古墳群の圧倒的な古墳の数でした。太古の昔から人が住み着いたのは、扇状平野を見渡せる丘陵地帯なのかと納得ゆく思いでした。考古学の論文は文字ではなかなか理解できませんが、現地を見ることによって、飛躍的に理解が進むような気にさせてくれます。

○古墳時代だけに限定されず、近世城館まで含み見学できた。歴史時代を含め研修できたことは大変良かった。石垣の刻印・墨書等、興味深かった。余裕のある日程も良し。熱心に解説・教示されたことにも感謝。

○楽しかったです。人数もちょうど良く、行程、食事、皆様の楽しい会話で満足な旅ができました。各地の見学場所で、地元の方のくわしい説明が聞け、他の旅行では出来ない実りの多い旅でした。皆様の人脈のおかげと感謝しております。いくつか疑問に思っていたこともお聞き出来ました。ぜひ又、参加させてください。お寺の見学も大変良かったです。

○何よりも先ず天候に恵まれたことが大成功の最大の要因で、加えて経験・知識豊富な解説者が丁寧に説明して下され、今回の見学会は大成功でした。金沢城、富山城の見学は、この時代のものは当会としては珍しかったのですが、新しい知見を得ました。　○立山連峰の輝く峰々、金沢城のモミジと大感激でした。

編集後記　厳しい寒さと雪が続きます。今回は昨年秋の総・大会と見学会の模様をお伝えしました。３月には第12回弥生・古墳講座を開催します。詳細は、同封のチラシをご覧下さい。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には、可能な限りお送りしています（ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります）。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は、事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局（入会についてのお問い合わせも）
ホームページ：http://www10.ocn.ne.jp/~bunsin-k/
Ｅ－ｍａｉｌ：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp